

大地へのアプローチの花壇の花達が、日毎に可憐な花を咲かせています。そして、新しい家も、同じように日毎に工事が進み、形になっていきます。夏の持つ躍動感あふれるエネルギーが、子どもたちのそれと同調して、毎日が喜びあふれる夏を迎えている大地です。

木陰ではないちもんめやわらべうたに興じる子ども達。クヌギの下で、カブトムシやクワガタを手にする子ども達。汗びっしょりでスロープを走る子ども達。宝箱の中身を吟味している子ども達。その午前中の溢れるばかりの外へ向かうエネルギーが、午後は、室内で、裂き織や手仕事、ままごと遊びや積木遊びの内へ向かうエネルギーに転換されて、バランスの良い1日を、子どもたちは送っています。

さて、あつという間に、1学期が終了となります。約1か月後、大地の花壇の花達は、どうなっているでしょう。子どもたちの成長とあわせて、きっと立派に躍動感あふれる茎を一回り太くして咲ほころんでいるでしょう。子供たちも、夏休みに一回りも二回りも太くなって、素敵な笑顔で、出会えることを楽しみにしています。素敵な暑い夏休みをお過ごしください。



## 【2輪の朝顔】

7月14日、父母と一緒に、末っ子の野球の応援から帰って来た夕方、母親から電話があった。「もう一つ 嬉しいことがあった。例年7月10日前に必ず咲いていた朝顔が、今2輪咲いた。今年はどうして咲かないのだろうと思っていた矢先のことだった。ゆうなが小1の時に学校からもらった朝顔の種を毎年植えてきたものだから」と。

ご存じのように、末っ子は3月末の高校受験失敗。一生分の悔しさと屈辱の涙を流した。そして、2次募集であったが、文武両道の名門に入れて頂いた。そして、憧れの野球部。ふたを開けてみれば、110年の創部の伝統と60名の部員。しかも、本人はセカンドを希望。セカンドには、1年生からレギュラーであり現在唯一の2年生レギュラーの不動のポジションである。つまり、1番レギュラー取りが困難なポジションであるという事である。

そのゆうなが、背番号をもらえ、ベンチ入りを果たした。試合に出れなくても、ベンチに入り、グラウンドでその背番号のついた姿を見るだけ、キャッチボールやシートノックの姿を見るだけでも幸せだけに、両親を連れて、夕涼み会の翌日に出かけた。その通り、真っ白いフォームに背番号をつけて出てきた姿を見ただけで、家族全員が涙で溢れた。年中から、暇さえあれば、一人で空中へボールを投げてとっていた事。大地のスロープでいつも一緒に野球していたこと。兄の野球部にいつもついて行った事。肘を大手術して1年間リハビリしていたこと。冬場の新聞配り。そして、高校受験。1軍になかなか呼ばれなかった練習試合。年齢の割に、平均以上に涙を流し、試練を多く経験してきたと思われる息子だけに、本当にキャッチボールをしているだけで感激した。妻も両親もきつと同じだった。

試合が開始され、息子はベンチから応援。2回に不動の先輩のコンディションの不調で、なんと3回から、息子に出番が回ってきた。周囲の3年生の親たちから、いよいよデビューだねと言われ、はっとした。妻も喜びよりも、緊張と不安が入り混じっている。よく、新聞にあるが「3年生の先輩に迷惑をかけられない、自分のせいで3年生最後の夏を終わらせるわけにいかない」というまさにそれであった。安堵なことに 高校初デビューは、見事嬉しい結果となり、守備も無難にこなし、貢献できた。試合に出ただけで、家族の嬉しさは十分で、その夕方に 母から 冒頭の朝顔の連絡があった。

2輪の朝顔。セカンド。打順は2番。2塁打。(しかも 2次募集!?) 全て、2だったと、その運命を感じた日であった。

そして、2回戦。今度は、先発出場した。最高の場面で打ち、最高の守備で貢献して「1年の青山のお蔭で勝てた」と先輩やOB達に言われていた。たぶん、野球人生で最高の試合だっただろう。親としては、この上なくうれしい事だが、「1年生のせいで負けた」と言われるプレッシャーのほうが大きい。そして、天狗になることなく、謙虚に練習する事だと、妻は言い含めていた。

「試練や失敗は大きなご褒美をもってやってくる」それだけはいつも信じているし、「失敗も禍も災難も、全て、その人の人生に用意されている意味のある事」だとも、日頃から思っている。

そして、どん底に陥った時も 「きつとどうにかなる」「今まで、必ずどうにかなってきたし、更によくなった」という体験を重ねてきた。「不死鳥のようによみがえる」「できないと思われていることをどうにかする喜び あきらめない」体験や奇跡やシンクロを重ねてきた人生があった。

「やらないで後悔するよりも、やって失敗して後悔してもいい」と思っているし、「1人で選択してやれば 1人で落とし前をつけれる」人生を選んできた。また、「同じ頂上や目的へ向かう時、ノーマルルートよりバリエーションルートを選択する」人生もあった。何だか、子どもたちの人生もなんとなくそんな傾向にあるかも知れない。

直近の出来事では 「文庫の火災」と「末っ子の受験」が大きなものであった。火災では、火災翌日の片付けを一緒にしてくれた仲間の暖かさとその後の多くの方々のご支援と励ましの心というご褒美と、素敵な建物建設というプレゼントを頂いた。末っ子の受験からは、今こうして、幸せに1年生から野球を満喫できる舞台を頂いた。

どちらも、素敵なご褒美をもたらしてくれた。その時は、本当に苦しいが、でもいつも「なんとかなる」「これぐらいで死にやしない」「この苦しさを楽しもう、必ずこれを乗り越えるドラマを楽しもう」という心意気を持っていきたい。

子どもにプレゼントできる人生とは何だろう。子どもたちが、苦勞なく、素敵な御葬式をするために(いい小学校 いい中学校 いい大学 いい会社 いい昇進 いい退職 いい老後を求めて生きていく最後は)、先の安心を求めて、先々に準備してあげる、困らないように、試練や苦勞などないように備えてあげる傾向はないだろうか。

困らないように、泣かないように、行き詰らないように、寂しくならないように、一人ぼっちにならないように、失敗しないように.....

所詮 人間。誰でも ご褒美やプレゼントは欲しい。でも、それはただではやってこない。大きな試練や失敗や苦しさでセットでやってくるらしい。「本当に楽しい事は、決して楽な事ではない」(長女の言葉)

